

社会科学習指導案

6年1組 28名 指導者 新名主 洋 一

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 子どもが社会的事象同士のつながりを考えながら中心概念について主体的に学ぶための手立てとして、予想させる活動やリレーションマップを用いた学習は効果的であったか。

1 小単元名 武士の世の中へ (大単元名 1 日本の歴史)

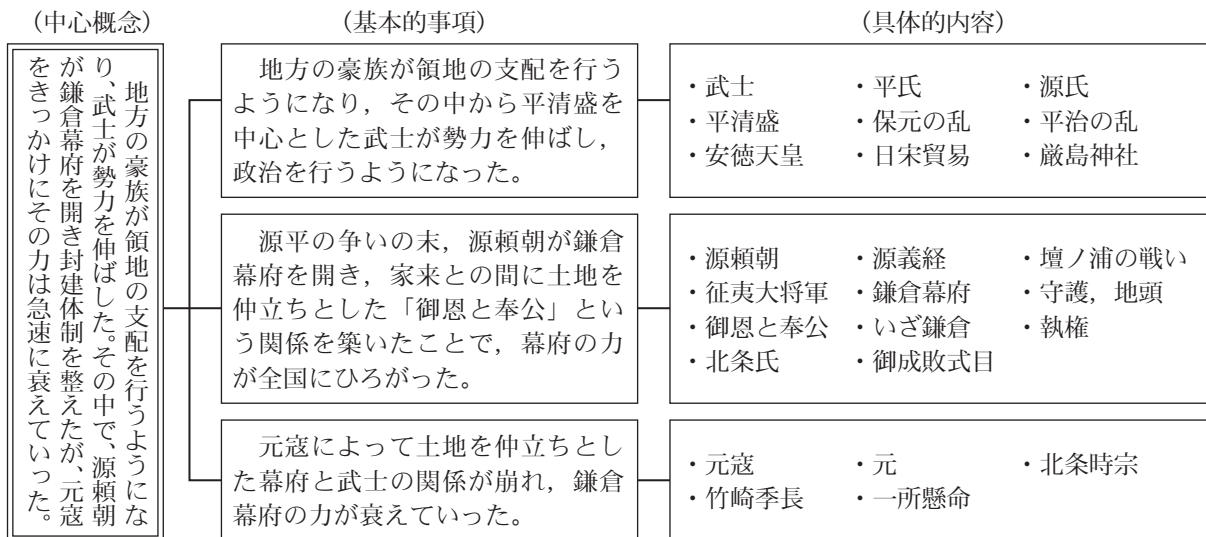
2 目 標

源平の戦いや、その後の鎌倉幕府の始まりから終わりまでの様子などを調べることで、武士による政治が始まったことを分かるようにする。

3 小単元の評価規準

- 武士の力が大きくなり、封建制度が確立したことに関心を持ち、写真や絵図などの資料をもとに、進んで調べようとしている。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 源氏と平氏の関係や鎌倉幕府の政治についてリレーションマップにまとめ、武士による支配の様子について考えている。 【社会的な思考・判断・表現】
- 年表や写真等の資料を活用しながら、源平の戦いや鎌倉幕府の始まりから終わりまでの様子などについて読み取っている。 【観察・資料活用の技能】
- 武士の勢力が強まり、鎌倉幕府が御家人と土地を仲立ちとした御恩と奉公という関係で結ばれていることを理解できる。 【社会的事象についての知識・理解】

4 小単元の構造 (概念構造図)



5 小単元について

(1) 小単元の価値

本小単元は、学習指導要領の第6学年の目標(1)および(3)の一部を達成することをねらいとして設定した。源平の戦いや鎌倉幕府の成立、元寇等の歴史的事象を通し、地方で領地を得た豪族の中から武士が生まれ、当初は平清盛を中心とする平氏が力をもったこと、その後の源平の戦いにより、源頼朝が鎌倉幕府を開き、封建体制を整えたことで武士による政治が始まったことが分かるようにすることをねらいとする。また、我が国の歴史について観点を決め、年表や写真、絵図などの資料を効果的に活用して調べたことを表現することで、先人の業績や代表的な文化遺産が我が国の発展に果たした役割について考える力を育てることをねらいとして設定した。

そのねらいを達成するために、まず、奈良の大仏と鎌倉の大仏について比較させることで、政治の主権が天皇から武士へ変わってきたことに気付かせることにした。この際、建立の経緯等についても補足し、そこから、子どもたちの疑問を創出させ、武士が大きな力をもつようになった経緯や武士による政治、武士の生活の様子についてについて調べる。また、武士による政治が衰えていった様子についても調べる。調べる過程においては、写真や絵図などの資料を効果的に活用させ、武士による政治の始まりについて考えることができるようにするとともに、リレーションマップを用いた話し合い活動を設定し、調べたことや考えたことを表現できるようにした。

(2) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、6年生になって本格的に歴史についての学習が始まったこともあり、図書室から歴史に関する本を借りるなど、社会科の学習への関心が高い。しかし、重要な語句がこれまでよりも増え、また、歴史的事象間の関連も複雑なため、学習内容を確実に定着できていない子どもも見られる。そこで、各授業では、繰り返し活動を取り入れ、既習の知識や技能を確認する場を設ける。また、リレーションマップを活用して事象間のつながりを考えさせ、それを交流し合うことで考えたことを表現させていく。こうすることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけ、それを活用しながら考えを交流することで、より広い視野から歴史的事象をとらえられるのではないかと考えた。

6 指導計画 (総時数9時間)

指導に当たって リ図 : リレーションマップ記入

| 過程 | 主な学習活動【評価規準】 | 時間 |
|----------|---|-----------|
| つかむ・見通す | 1 奈良の大仏と鎌倉の大仏を比較し、2つの大仏の建立の経緯について相違点や類似点について話し合い、学習問題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">武士による政治は、どのようにして始まったのだろう。</div> 【関・意・態】 2つの大仏の違いに興味をもち、鎌倉幕府が行った政治について予想し、意欲的に学習計画を立てようとする。 | 1 |
| | 2 学習問題について予想し、学習計画(追究の柱)を立てる。 ◎ 武士が力をもつようになった理由 ◎ 武士による政治の始まり ◎ 武士による政治の様子 ◎ 武士の生活の様子 ◎ 武士による政治が崩れた理由 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">大仏建立を進めた聖武天皇と源頼朝の身分の差に気付かせ、そこから追究の柱を立てられるようにする。</div> | 1 |
| 調べる | 3 追究の柱について、資料をもとに個人やグループで調べ、全体で話し合う。 (1) 武士はなぜ大きな力をもつようになったのか。 リ図 (武士、平清盛、源氏、保元の乱、平治の乱、日宋貿易、巖島神社 など) <繰り返し活動>→貴族(藤原氏)による政治の様子 | 1 |
| | (2) 武士による政治は、どのようにして始まったのか。 リ図 (源頼朝、源義経、征夷大將軍、鎌倉幕府、壇ノ浦の戦いなど) <繰り返し活動>→平氏による政治の様子 | 1 |
| | (3) 武士による政治は、どのようなものだったのか。 リ図 (守護・地頭、御恩と奉公、執権、北条氏、御成敗式目など) <繰り返し活動>→平安時代までの政治のしくみ(律令制)や平氏による政治の様子 | 1 (本時) |
| | (4) 武士の生活の様子は、どのようなものだったのか。 リ図 (いざ鎌倉、武士の館、武芸の訓練など) <繰り返し活動>→貴族の生活(寝殿造、食事、仕事など) | 1 |
| | (5) 武士による政治は、なぜ崩れたのか。 リ図 (元、元寇、竹崎季長、一所懸命、北条時宗など) <繰り返し活動>→鎌倉時代の政治のしくみ(封建制) 【思・判・表】 鎌倉幕府が行った武士による政治について考え、リレーションマップにまとめることができる。 【技】 資料をもとに分かったことを話し合い、相手に分かりやすく伝えたり、話し合いから得た知識を再構成したりすることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">繰り返し活動では、主に平安時代について取り上げ、鎌倉時代との違いを比較させることで、武士による政治の特徴に気付かせる。</div> | 1 |
| まとめる・生かす | 4 調べたことをもとにリレーションマップを活用し、学習問題についてまとめる。 【知・理】 地方の豪族が領地の支配を行うようになり、源頼朝が鎌倉幕府を開いて封建体制を整えたが、元寇をきっかけにその力は急速に衰えていったことがわかる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">地方の豪族が領地の支配を行うようになり、始めは平氏が栄えた。源平の戦いの後、源頼朝が鎌倉幕府を開き封建体制を整えたが、元寇をきっかけにその力は急速に衰えていった。</div> | 1 |
| | 5 鎌倉幕府と島津氏の関係を調べる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">武士による政治が遠く離れた鹿児島まで及ぶようになったことに気付かせるため、島津氏の始まりについて取り上げ、郷土の歴史に関心をもたせる。</div> | 1 |

7 本 時 (5/9)

(1) 目 標

○ 鎌倉幕府が土地を仲立ちとした「御恩と奉公」という関係をもとに勢力を強めていったことを調べ、武士による政治が確立したことを理解することができる。

(2) 評価規準

鎌倉幕府が土地を仲立ちとした「御恩と奉公」という関係をもとに勢力を強めていったことに気づき、それをリレーションマップや白地図に表すことができている。 【社会的な思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

本時は、「調べる」過程の第3時で、鎌倉幕府が土地を仲立ちとした「御恩と奉公」という関係をもとに勢力を強めていったことを捉えることを期待して設定した。


まず、「つかむ・見通す」過程で、繰り返し活動として、平安時代までの政治の仕組みである律令体制について確認する。そして、本時のめあてを確認した後、めあてに対する予想を立てさせる。次に、「調べる」過程では、調べたことをリレーションマップにまとめさせ、それをもとに意見の交流を行わせることで、「御恩と奉公」の関係について促えさせたい。最後に、「まとめる・生かす」過程では、繰り返し活動との関連を図り、平安時代の律令体制との違いに気付かせ、鎌倉幕府による政治について考えさせたい。

(4) 本時の展開

[] : 子どもの意識 (資) : 資料 □ : 指導 ※ : 評価

| 時 | 過程 | 主な学習活動と教師の手立て・評価 |
|-----|----------|---|
| 10分 | つかむ・見通す | <p>1 繰り返し活動として、平安時代や平氏による政治のしくみを確認する。</p> <p>[・土地や人民は、すべて天皇のものだったな。 ・平氏は他の武士たちから不満をもたれていたな。]</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>鎌倉幕府は、どのような政治をおこなったのだろう。</p> <p>3 めあてに対する予想を立てる。</p> <p>[・土地や人民は、すべて幕府のものになったのではないかな。 ・武士たちが不満をもたないような政治をしたのではないかな。]</p> |
| 25分 | 調べる | <p>4 資料をもとに、鎌倉幕府が行った政治について調べ、リレーションマップにまとめる。</p> <p>[・家来や手柄のあった武士に、領地を与えたのだな。 ・領地やほうびを与えることを「御恩」というのだな。 ・戦いがあれば「いざ鎌倉」と駆けつけていた。 ・家来たちの行いを「奉公」というのだな。 ・源氏の将軍が絶えた後は、執権の北条氏が政治を行っている。 ・東国に力をもっていた幕府は、朝廷の軍を破ったことでその力が西国まで及んでいる。]</p> <p>5 鎌倉幕府の政治のしくみについて調べたことについて話し合う。</p> <p>[・領地を中心に、幕府と武士の関係は成り立っているのだな。 ・武士たちは、領地がほしいから幕府に奉公したのだな。]</p> |
| 10分 | まとめる・生かす | <p>6 本時の学習についてまとめる。</p> <p>鎌倉幕府は、武士たちと領地を中心とした「御恩と奉公」という関係を結び、力を強めていった。</p> <p>7 本時の学習の感想をまとめ、次時の学習を確かめる。</p> <p>[・お金ではなく、武士にとっては土地が大事だったんだな。 ・これまで学習した政治のしくみと異なっている。 ・力が強まった幕府は、その後、どうなったのだろう。]</p> |

平安時代や平氏による政治の様子と鎌倉幕府の政治の様子を比較する発問を行うことで、本時のめあてを確認する。



(資) 御恩と奉公の関係図
※ 資料をもとに、鎌倉幕府の政治のしくみについてリレーションマップにまとめ、その特徴を理解できたか。(ワーク、発表)

○ 鎌倉幕府の政治のしくみが理解できている子どもには、なぜ武士はそこまで鎌倉幕府に奉公したのか考えさせる。
○ 鎌倉幕府の政治のしくみが理解できていない子どもには、その関係を図に表して考えさせる。

まとめの段階では、繰り返し活動の内容と関連を図り、武士による政治がこれまでの政治と異なっていることに気付かせる。